

基地や環境問題 音楽通し関心を

宜野湾でピースフェスタ

沖縄民謡やロック、ポップスなどいろんなジャンルの音楽で平和メッセージを伝える「ピースミュージックフェスタ宜野湾」(主催・実行委員会)が21日、宜野湾海浜公園屋外劇場で開かれ、約1000人が参加した。県内外で活躍するミュージシャンらが、熱いステージを繰り広げ

た。これまで、普天間代普基地建設で揺れる名護市辺野古などで開催。今年は普天間基地を揺える宜野湾市から、音楽を通して若い人たちに基地や立相、環境問題などを考えるきっかけを広げたいと企画された。舞台では、UAや加藤登紀子、カクマクシヤカ、太

陽風オーケストラなど14組の出演者が「沖縄の自然を守ろう」「あきらめずに頑張ろう」などメッセージ。観客も歌声やリズムに合わせて体を揺らしたり、カチカチンを鳴らすなど一体となって盛り上がった。

母親の宮城いつかさん(29)と訪れた民権員(8)「東村」は「家の上をへりが飛んでいて、いつもうるさい。ない方がいい。いつかさんは「ヘリパッドの問題など仕んでいる地域で起きている。少しでも自然の大切さについて関心をもってもらえれば」と語った。



出演者の歌声やリズムに合わせて盛り上がる観客
—21日午後、宜野湾海浜公園屋外劇場